



先月お休みしましたので、今月号で改めて新年度の方針とこれから目指す彦根市の方向性について書かせていただきます。

これまで進めてきた財政再建の継続・発展が必要なのは言うまでもありませんが、新たにふるさと納税の目標額を50億円（4年以内）に設定し、引き続き返礼品の開発のほか、彦根の認知度向上、さらには彦根ブランドの推進に取り組んでまいります。また、彦根城世界遺産登録と併せて進めてきた宿泊施設の誘致のさらなる推進や「食」の開発など、リピーター創出や口コミでの拡散を図り、持続可能な観光誘客を図ります。映画のロケ誘致も同様に体験型・宿泊型観光による歳入増を目指すものであり、最終的に市民全体に還元されることを目的としています。

これらは全てできるだけお金をかけずに彦根が持つポテンシャルを最大化する取り組み

です。彦根城はもちろん城下町で自然も豊かな彦根は映画のロケ地に適していますし、国スポ・障スポを契機に建設されたスポーツ施設も有効活用して投資の効果を生む必要がありますので、引き続きJリーグ誘致も取り組みます。そして、ひこにゃんもまだまだ伸びしろがあります。彦根藩は開国の祖でもありますので、侍認定制度やアニメ聖地化などによるインバウンドの拡大、さらには物産・コンテンツの海外展開も推進し、彦根を世界に売り込んでいきます。



和田 裕行

彦根城は、知れば知るほど、オモシロイ。

未来に残そう みんなのお城 -vol.25-

お城に重臣が暮らすようになった理由

彦根城を世界遺産に



彦根城世界遺産登録推進室
☎ 26-5833 FAX 26-5899

戦国時代には、大名だけでなくその土地の有力者もお城を持っています、自分の領地を独自に支配していました。当時の人々にとっては、その両方から支配されるという複雑な社会になっていました。この解決のため、土地の有力者を領地から離して、大名と一緒にお城で暮らすようにしました。地域の「しがらみ」を無くしたのです。彦根城で言うと中堀より内側、世界遺産にしようとしている範囲がそのことを私たちに教えてくれます。

